

大好き！絵本

初瀬 恵美



『怪物園』

文・絵: junaida
出版社: 福音館書店

今月の絵本紹介は、子ども達に大人気の絵本『怪物園』です。ちょっぴり怖いこの表紙。(と思いきや、お母さん方には「かわいい～」と好評。)タイトルは、少し昔をイメージさせる和名で漢字。しかし作者はjunaidaと横文字。私にとっては、絵本が作られた時代や国籍などがとても気になった一冊でした。

少し調べてみると、初版は2020年12月とまだ半年もたっていない絵本。作者は日本人の方でした。タイトルはjunaidaさんが1930年代の映画『怪物園(かいぶつだん)』をうっかり「かいぶつえん」と読み間違えたのがもともとの始まりだったそうです。(詳細は、[ふくふく本棚 特別エッセイ junaidaさん『怪物園』](#)を検索するとネットでご覧になれます。)私はこのエッセイを読んで、謎が解け、絵本のおもしろさもますます感じることができました。

「怪物園」とは、たくさんの怪物達をのせて長い長い間旅をしてきた下の絵のような建物です。古い立派なお屋敷に、目がいくつもあって、獣のような手足やしっぽなどを持つ姿は少々不気味に感じます。ある日、鍵を開けたままにしていたので怪物たちが、外の世界へと抜け出してしまうというお話です。

私の興味は、表紙のさまざまな違和感から始まりました。しかし、保育園の子どもたちは少し違いました。表紙の怪物達のイラストと、タイトルの響きに心をつかまれたようで、読み始めるまで「かいぶつえん！かいぶつえん！」とすごいテンションのかけ声かとんでいました。そんなテンション高めの子どもの声に誘われて、どこからともなく子どもたちが集まり、2～3人で見るつもりが、総勢15人ほどになりました！とても繊細な絵なので、みんなにしっかり見えるように、一人一人に絵本を近づけるなど配慮をしながら読みました。

怪物園から抜け出した怪物たちが、街までやってきて、通りを行進し始める場面になると、子どもたちに一気に緊張感が走りました。怪物たちが何日も行進を続けるので街に住む絵本の中の子ども達は外で遊べなくなります。しかし、子どもたちは落ち込むことなく空想の旅に出ることにしました。場面は一気に明るく楽しい世界へ切り替わります。怪物達が街を行進しているという暗い緊張感のある場面と、子ども達が繰り広げる明るく楽しい空想の世界という、緊張と緩和が繰り返されるように進む絵本。表紙から裏表紙まで、全ての場面が細かく丁寧に描かれています。特に裏表紙の絵は、子どもたちの心をつかみ、もう一度読みたくなるポイントのように感じました。

このお話が好きすぎて、読み終わった後にブロックで怪物園を再現するような子どもでできました。怪物園だけでなく沢山の怪物たちも作ってのせたり、怪物園の手なども再現していました。絵本が終わった後も、絵本の世界を楽しむことができる、そこまで、子どもの心を動かす絵本ってすごいですね。ぜひ、この『怪物園』ご覧になってみてください。



「怪物園」



ブロックで再現した「怪物園」

誕生日おめでとう

6月

